

## **第 2 回伊勢市上下水道事業審議会 議事録要旨**

**平成 30 年 7 月 19 日**

## 第2回伊勢市上下水道事業審議会 議事録要旨

日 時 平成30年7月19日(木) 14:00~15:35  
場 所 伊勢市二見生涯学習センター 1階 ホール

委員出席者 木本 凱夫 齋藤 平 杉山 謙三 高橋 克彦  
岩崎 良文 奥村 幸恵 曾根 章江 竜田 和代  
田岡 光生 大西 隆 中西好一郎

委員欠席者 松原 智恵蔵 杉田 英男

事務局	上下水道部長	中村 高弘
	上下水道部次長	前村 俊和
	上下水道総務課長	成川 誠
	料金課長	酒井 幸久
	上水道課長	田端 幸孝
	上水道課副参事(建設係長)	濱口 新
	下水道建設課長	松田 康
	下水道施設管理課長	渡邊 実
	上下水道総務課主幹(経理係長)	藤田 文香
	料金課主幹(上下水道料金係長)	宮本 幸夫
	上水道課主幹(水源係長)	中西 功
	上水道課給水係長	北村 功郎
	上水道課維持係長	佐々木 徹
	上水道課建設係主事	松本 拓也
	上下水道総務課庶務係長	下村 真司
	上下水道総務課庶務係	牧 祐介

議事録署名 齋藤 平 委員 岩崎 良文 委員

傍聴者 なし

議 題 (1) 伊勢市水道事業ビジョンについて(継続審議)

## 審議状況

○開会挨拶 上下水道部長

○司会進行 事務局

○議事進行 木本会長

### ○第4号議案 伊勢市水道事業ビジョンについて

上水道課から、伊勢市水道事業ビジョンの現状と課題、追加項目、推進する実現方法及び事業計画についてそれぞれ説明。

以下、伊勢市水道事業ビジョンに対する質疑応答

質委員：資料2の1ページの地震時に液状化する危険の高い場所から優先的に管路改修を行うとあるが、根拠資料があるのか。

答事務局：南勢水道の事業となっており、一度南勢水道に確認し、次回提示させていただく。

質委員：アセットマネジメントを訳すと、どう言う意味か。

答事務局：資産管理である。

質委員：資料1の第4章の中身は第2章に入れるべきではないかを感じる。

答事務局：第2章は現在の水道事業の概要を整理したものであり、第4章は将来の事業環境を予測したもので、分けて整理している。

質委員：伊勢市の有収水量のピーク及びこの先30年くらい先の見通しを教えて欲しい。

答事務局：人口のピークがすぎ、有収水量についてもピークは既にすぎており、将来的にも減少傾向が続く見込みである。

質委員：料金収入の今後10年の推計はどのように考えているか。また、2019年以降10年先の有収水量ベースの収支見通しを教えて欲しい。

答事務局：次回に水道事業全体の財政収支計画を示す際に説明したい。

質 委員：料金回収率が110%を上回っていることについて、市としてどのように考えているか。

答 事務局：儲けすぎではないかとの指摘かと思うが、現在給水収益が年間1%程度減少してきている。値下げは数年前に実施しており、これまで還元する方向で努力してきた。

質 委員：施設の統廃合による経費削減見込みを教えて欲しい。

答 事務局：経費の削減については、人件費をはじめ、施設の廃止、料金業務等に民間委託を導入するなど実施しているのでご理解いただきたい。

質 委員：資料1の6-4、6-6の図の需要金額について、前期の計算が合わない。11年ベースで計算すると合うがどのような考え方か。

答 事務局：平成30年度工事も更新需要に加味することから、前期については、今年度も入れて11年で計算している。前期の計算方法については下部に注記を入れる。

質 委員：広域連携について、いつからどのようなメンバーで実施するか考えがあれば教えて欲しい。

答 事務局：広域連携については、三重県主導で勉強会を始めたところであり、これから話を進めていく段階である。

質 委員：資産維持の状況について、今後資産更新等を進めた場合、3%の水準とするのが基本であるが、市としてどのように考えているのか。

答 事務局：料金改定の際の考え方かと思うが、水道事業ビジョン策定の中で料金改定はないため、今後研究させていただく。

質 委員：広域化について、住民へのサービス低下をどのように考えるか

答 事務局：広域化については、サービスが向上し、経費も削減できないと意味がないと考えている。現段階では話が進んでいないが、将来的に広域化で動く際にはサービスが低下しない方向ですすめたい。

意委員：資料1の1-4にここまで書く必要があるのかと感じる

答事務局：1-4、5は国の新水道ビジョンの基本理念と理想像を示しており、これをもって国の動向を説明しているのので、このまま残させていただきたい。

質委員：危機管理対応について、豪雨による断水、浸水対策に対してもう少し記述してはどうか。

答事務局：水害に関する危機管理対応について6-13に記述があるが、1-5においてももう少し記述していきたい。応急給水マニュアルが地震や工事事務による断水に対応した記述をしており、今後は更新の際に豪雨等も加味していきたい。

質委員：資料1の2-5に平成31年3月の表記があるが、平成30年3月でよいのではないか。

答事務局：平成29年度末時点に訂正する。

質委員：資料1の2-6の表にSUS、RC、SSと専門用語があるため、表の下部に注釈を入れるか用語集に掲載して欲しい。

答事務局：表の下部に注釈を入れる。

質委員：資料1の4-9について図表の説明文の位置が、図表とあっていないため修正してほしい。

答事務局：図表と説明文を合わせる。

質委員：資料1の3-23の耐震適合性のある管と耐震管との違い、耐震適合率と耐震管の割合との違いを教えて欲しい。

答事務局：耐震管とは継ぎ手が耐震継手となっており、東日本大震災で被災しなかったものをいい、耐震適合性のある管とは、継ぎ手が耐震継手ではないが、地盤が良いなどの理由で被災しなかったものをいう。

質委員：資料1の4-4の表において、一日最大給水量と一日平均給水量の差を教

えて欲しい。

【答】事務局：一日平均給水量は、年間給水量を年間日数で割ったものであり、一日最大配水量は、年間を通して一日の最大給水量であり、差が漏水であるということではない。

【質】委員：資料1の4-13の表の縦軸は給水単価のみではないのか。

【答】事務局：供給単価は削除します。

【質】委員：資料1の4-13の橙色の曲線について、H29内部留保資金は借入率100%の数字との理解でよいか。

【答】事務局：H29は決算の数字、H30は予算の数字を使用しており、H31以降については、借入率0%、50%、100%で分けている。

【質】委員：表だけだとそのようには読み取ることが出来ず、借入率100%の理解になってしまう。

【答】事務局：表現を工夫し、分かりやすくする。

【質】委員：資料1の7-1の表の総事業費14,052百万円と6-6表前期の更新需要12,303百万円との差は何か。

【答】事務局：7-1の表は、今後10年で行う管路更新以外の事業費を計算に入れている。

【質】委員：伊勢市水道事業基本計画の検証は実施しないのか。

【答】事務局：水道事業ビジョンの目標値設定を行うときに、水道事業基本計画で設定した目標値を検証していきたい。

【質】委員：資料1の2-5について、南勢水道の取水可能量を最大限活用した場合、中須水源地の取水可能量で伊勢市の水量を満たすことが出来、他の自己水源は廃止することで、将来の施設の維持管理が楽になると思うが、検討してもらえるか。

【答】事務局：水源施設を減らしたほうが現状の維持管理経費は安くなるが、南勢水道の基本料金なども考慮したトータルコストで考えて、自己水源を利用しながら南勢水道の自主計画水量に合わせた取水を行っている。

質委員：資料1の2-5の表の小俣受水の取水可能量と計画取水量の数値は矛盾しているのではないか。

答事務局：計画取水量は920が正しい数字である。

質委員：伊勢市の自己水源には水質評価があるが、南勢水道の水質評価も記載して欲しい。

答事務局：南勢水道にも水質評価はあるので記載していく。

質委員：水道の濁りの原因は解明されたのか。

答事務局：前山の濁りについては、管が破損し、その修繕を行う過程において、バルブを止めたことが影響して濁りが発生した。

小俣町で発生した濁りについては、現在調査中であるが、原因確定まで至っていない。

質委員：訂正のあった資料1の4-13の供給単価は必要ではないか。

答事務局：供給単価の記載があり、必要なので残すこととする。

質委員：資料1の6-4の表に管路の延長の比率を追記して欲しい。

答事務局：管路の延長と比率について記載したい。

#### ○その他

- ・事務局より今後のスケジュールを提示。

上記のとおり会議の経過を記載して、その相違ないことを証するため、ここに署名する。

平成 30 年 7 月 19 日

議 長 \_\_\_\_\_ 印

署 名 委 員 \_\_\_\_\_ 印

署 名 委 員 \_\_\_\_\_ 印